

これらの
課題を解決!

トークイベントを 価値あるものにする プロ・モデレーターをどう活用くださる

● 登壇者が一人で一時間、論理的にしゃべり続けるのは難しい。とはいえ、用意された台本に忠実なトークでは聴衆の心をつかめない。

● タイムキープが難しい。予定時間を大幅にオーバーしてしまい、聴衆が途中で帰ってしまう。

● 主催者が用意した進行役では、聴衆の目線で話を引き出せない。登壇者側の論理で進行を管理するため、時には聴衆が内容を理解できないまま放置。置きざりにしたままイベントを進めてしまう。

● どんなに素晴らしい内容であっても、登壇者が一方的に発信する講演やセミナーでは聴衆の心に刺さりづらい。

詳しくは裏面をご覧ください

トークイベントは、聴衆に直接、サービス提供者や専門家としての思いを伝える絶好の機会。ところが進行・演出をないがしろにすると、せっかくの機会が台無しに。“来場者の心に何も残らない”という残念な結果を生む可能性があります。

聴衆の目線に立ったイベント進行

第三者目線のプロ・モデレーターはあくまで聴衆の立場で進行するため、あまりに専門的な内容、内輪ネタに走りそうな時に機転を利かし、聴衆の代表として質問をしたり、観客の反応を見ながら軌道を修正していきます。

ライブ感あふれるイベントに

スクリプト（台本）通りに進行するトークは、聴衆からみれば、それがいかにも作られた場であることは明らか。どこか物足りなく退屈なイベントになってしまいます。会場の雰囲気や登壇者の個性、状況を読みながらアドリブを利かせるモデレーターがライブ感あふれるイベントへと昇華させます。

経験豊富なインタビュアーが対応

Q&A対談でメリハリをつけるので印象に残りやすく、聴衆も飽きることなくトークイベントを楽しむことができます。イメージは、壇上で実施される公開インタビューです。豊富なグループインタビューの経験を活かし、ファシリテーターとして登壇者の発言を取りまとめながら、オンタイムにてトークイベントを仕切ります。

イベント前後のサポートも

トークイベント開催前には、登壇者ひとり一人と面談したうえで、主催者の趣旨に沿った基本構成案を作成。登壇者の負担が大幅に軽減されます。当日は登壇者を引き立てながら、ストーリーを描きながら、スムーズかつエンターテインメント色の強い“聴衆巻き込み型イベント”を演出し、成功に導きます。さらにワンストップで記事化まで併せて対応しますので、コストダウンにつながります。



PROFILE

伊藤秋廣

年間500人にロングインタビューを実施し続けるプロ・インタビュアー。様々な業界で活躍するビジネスパーソンをはじめ、文化人、芸能人、アスリートなどから数々の名言を引き出してきた。株式会社エーアイプロダクション代表。

実績

日経BP社主催大型経営セミナー、大手M&A仲介会社主催小規模セミナー、スタートアップ企業3社合同開催のトークセッション、大手通信会社社内キックオフミーティング、飲食店オーナー3名によるトークイベントなど

問い合わせ先

